

令和5年度第2回埼玉県秩父地域保健医療協議会 議事概要

1 日時及び開催形式

令和6年3月11日（月）午後7時から午後8時16分
Zoomによるオンライン開催

2 出席者

- ・委員（別紙名簿のとおり）：委員総数18名（全員出席）
- ・事務局：保健医療政策課、秩父保健所 計8名
- ・傍聴者：1名

3 あいさつ

柳澤 秩父保健所長
井上 秩父郡市医師会長

4 議題

（1）令和5年度圏域別取組の実施状況について

秩父保健所から、資料1に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

（井上会長）

長瀨町の資料に、「町民とつくる健康増進プロジェクトの開始」という取組があり、県立大学等と連携してアンケート調査を行い、健康課題分析を行ったとあるが、分析結果を簡単に教えてほしい。

（長瀨町・福島委員）

データヘルス計画を国保のデータベースシステムから分析した結果があり、その中での健康課題をお話しさせていただく。

まず、重症化予防について、適切に医療機関を受診すること、また、特定健診の保健指導の実施が必要という課題が出てきている。さらに、生活習慣病を予防するために運動と食習慣の改善を促す対策が必要という特定保健指導の重要性が出てきている。また、がんの死亡率を減少させるため、がん検診の受診率の向上に取り組むことが課題に上がった。

来年度は町民との話し合いを持ちながら、課題を共有して、保健事業をどのように取り組んでいくかを町民と一緒に考えていきたいと考えている。

（2）秩父圏域の圏域別取組（第8次）について

秩父保健所から、資料2、3、4に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

（井上会長）

救急医療対策について、昨年6月から1市4町と医師会で協議を重ね、まとまった。

ちちぶ医療協議会事務局である秩父市の新井委員にコメントをお願いしたい。

(新井委員)

来年度の救急医療については、医師会、各関係機関及び1市4町で協議を重ね、各医療機関に御検討いただき、輪番体制を維持することができた。しかし、医療スタッフの不足等の問題があるため、救急医療を継続できる体制について、引き続き検討を重ねていかなければならないと感じている。皆様の御協力をお願いしたい。

(西委員)

救急医療の話とは違うかもしれないが、県のストロークネットワーク（急性期脳卒中治療ネットワーク）について話しをする。脳卒中学会では、人口の99%以上の方が発症して1時間以内に救急治療ができることを目指している。この5年間で、ストロークネットワークで520名が秩父から圏域外へ搬送された。秩父地域では救急隊への依頼から病院等に入るまで、あるいはヘリコプターの場合は乗せるまでの時間が、平均すると63分かかっている。県南だと35～40分である。秩父地域は人口だけで見ると県の1.3%ぐらいだが、面積で考えれば県の25%ぐらいある。埼玉県は4分の1の地域がうまくいっていないというのもどうかと思うので、協力をいただきながら、ストロークネットワークを進めていきたいと思っている。

(井上会長)

ストロークネットワークは秩父にとってはありがたい救急体制の1つで、大分浸透してきているが、住民がこういうネットワークがあることを知らないとなりに立たない。行政が積極的に広報を行うことが大事であると思う。

(秩父消防本部・新井委員)

消防でもストロークネットワークを通じて搬送がスムーズになっている。管外への搬送が増えているが、このシステムを使うとより一層素早く搬送できる体制になっているので、今後ともよろしくをお願いしたい。

(島村委員)

以前7病院あった二次救急輪番病院が今は3病院になり、そのうち秩父市立病院が年間213日くらい受け持っている。市立病院が他の病院と違うのは、救急当番医について、土日は非常勤医師に手伝ってもらうこともあるが、ウィークデーは常勤医で回している。そのため常勤医には非常に負担になっている状況である。

今はコロナ禍前よりも直ぐに受診に来る傾向にある。翌朝でもいい人が、熱が出たらすぐ受診して検査をしてほしいという人が増えている。夜間や土日にそういう患者が増えると当直医に負担がかかる。今後は、二次救急に特化して一次救急は他の医療機関で診察することも考えられる。両方とも病院で診るとなると、夜間だけでも二次医療圏を広域化して、病院の負担を減らすという方法を考えていくしかないと思う。秩父で二次医療を守っていくためにも、軽症者については夜間や休日の受診を控えることに関し、呼びかけだけではなく、行政の目標として取り組んでいただけるとありがたい。

(井上会長)

住民の意識を変えていく必要があり、適正受診への協力要請を加えてもいいと思う。

また、救急医療の中に、小児救急のことも入れてはと思うがどうか。

(島村委員)

市立病院は小児科は2人でやっているが、なるべく2人の先生に負担がかからないように配慮している。産科医療については、ちちぶ医療協議会で力を入れて支援しているが、産んだ後は子供を育てないといけないので、小児科医についても同じように支援を厚くしてほしいというのが正直なところである。小児科が充実できれば、小児検診に小児科医が参加することもできるかと思う。この地域で、若い方々が安心して子供を産み育てられるような環境を作っていくないと、秩父地域はどんどん衰退していってしまうのではないかと思う。

(井上会長)

小児救急の問題は2番目と重なるが、取組に入れてはどうかと思う。秩父地域は特に少子高齢化が進んでいるので、子供たちを守るということを、地域の目標の1つに掲げるべきだと思っている。

また、看護師問題について、市立病院の関田委員に発言をお願いしたい。

(関田委員)

看護師確保に向けては、看護協会等も含めて様々な対策を行っているが、なかなか実績に結びつかないのが現状である。取組の中に「潜在看護師の発掘」が出ているが、看護協会でも看護師の届出制度を実施しているが、実数把握がなかなかできない状況にある。潜在看護師を職場に結びつける取組ができればよいと思う。

また、看護専門学校が定員割れをしているところであるが、これからの人材育成を含めて、小学校・中学校・高校の生徒に看護師の仕事の魅力を伝えている。これは今後も続けていきたいと思っているので、皆様の御協力をよろしくお願いしたい。

(井上会長)

看護学校については課題が山積しているが、これは秩父看護専門学校だけの問題ではなく、県内・全国すべての看護学校が同じ状況にあるということを踏まえて、皆で考えていく必要があると思っている。

小中学生は、将来なりたい職業の上位の1・2番に看護師を上げるが、高校生になると下がってしまうのはなぜだと思うか。

(関田委員)

高校生になると、いろいろな職業が選択肢に入ってくるからだろう。よくは分からない。

(井上会長)

小中学生に対するアピールと高校生に対するアピールは、別のやり方をしないと、高校生は大人になってきているので、小中学生と同じようにやっても難しいと感じている。本人だけでなく家族に対するアピールとか、さらに、社会人に対するアピールとかもするとよいのではと思う。

今秩父圏域で一番困ってることは、医療人材不足だと思う。医師や看護師ばかりではなく、例えば薬剤師や歯科衛生士など、全ての分野に渡って医療人材不足と言われてる。

薬剤師会の今泉先生、何か御意見があるか。

(今泉委員)

薬剤師不足は確かにあって、なかなか人材が定着しない。また、秩父地域から外に出てし

まった薬剤師も結構いるが、一度出てしまうとなかなか戻れず、常にジレンマを抱えている。また、薬剤師だけではなく、最近は事務職もかなり厳しい状況にある。医療系の仕事で、少し特殊なところもあるので、最近懸念しているところである。

薬剤師の数は例年通りに増えているが、都会ではそれなりに足りていても、秩父のような地方ではどうしても人材の確保が厳しくなっている。

(井上会長)

歯科医師会はいかがか。

(吉田委員)

歯科医師会でも、歯科衛生士の人材不足はかなり深刻である。秩父には歯科衛生士の専門学校はなく、深谷市の専門学校が一番近い。秩父から毎年5人位行っているが、秩父に戻ってくる人は少なく、そのまま都内や県南の方に就職してしまう傾向にある。その一番の原因は給料だと思う。自由診療をやっている診療所だと初任給でもかなりの給与を出すので、そちらに行ってしまう。その後は秩父に戻ってくるのは難しい気がする。医師、薬剤師とほぼ同じような現象が歯科衛生士でもあると思う。

(井上会長)

先日、県看護協会の方と話したが、新卒者は給料の良い方や、都会に流れる傾向が非常に強く、秩父地域以上に、県南の大勢の新卒者が都内に流れてしまうということを知った。今後そういうことも含めて圏域内での対策や考え方の共有が必要になってくると思う。また、医師や看護師ばかりではなく、薬科、歯科等の人材の問題もこの会で話し合っていければと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

本日いくつか意見が出たが、加筆修正の上で、保健所でまとめていただければと思う。

→修正内容については、井上会長一任で了解となる。

3) 新型インフルエンザ等の対策について

秩父保健所から、資料5に基づき説明がなされた。

【主な質問・意見等】

(井上会長)

関井委員に、秩父で気になったことや昔と変わったこと等について発言をお願いする。

(関井委員)

私の場合、元所長という立場や、また新型コロナの初動の時に対応したというところもあるので、その辺りを含めてお話させてもらう。保健所の職員の確保、特に保健師については、以前は秩父出身の保健師がたくさんいたが、そういう方が退職してしまい、あと数年すると秩父に住んでる県の保健師がゼロになってしまうという状況になりつつある。そうになると、他の地域から来てもらうことになるが、長距離の通勤はかなり負担が重く、特に保健師は女性が多いので子育て中は非常に大変である。本庁には、秩父を支える保健所の人材確保について常々申し上げてきた。事が起こってから人を確保するといっても時間がかかるので、平時から秩父にも人を置く必要があることを検討いただければと思う。

(4) その他

(事務局)

委員の任期は5月31日までで、会議は今回が最後の予定である。この2年間委員の皆様には大変お世話になった。

(西委員から)

4月13・14日に秩父宮市民会館において、日本老年脳神経外科学会があり、14日には市民公開講座「脳卒中にならない、負けない！」が開催されることの紹介があった。

(閉 会)